

電子複写不可

海上挺身第二十九戦隊行動経過概要  
(付 爆雷投下展示演習について)

防衛研究所図書館



3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
60  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
60  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
70  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8





海上挺進基地第29大隊 (戦隊15066部隊 大隊長 大庭村中元勇以下 総員約900名) (以下基地大隊といふ)は、基地の設置、艇の整備及Uボ出撃時の注水作業等を行い、戦隊を支援する部隊と、その主力は、12月中旬から沖縄本島西岸の比谷(47km) (那覇東北約12km)に基地を設定中。

この基地大隊が、次のとおり戦隊に派遣されて行動を共にした。

兼務隊 将校以下 15名 事務、經理、医務、給養等の業務に従事

整備中隊 中隊長以下 65名 ① 整備支援

2. 訓練

(1) 訓練隊は、船舶練習部第10教育隊(幸内浦)において、主に昼夜の横海、枝動、襲撃等の諸課目を濃練した。

(2) 13日より自動車工場において、各戦隊全員を集めて、約1週間、自動車エントリ整備教育が実施された。

(3) 19.11.29 山梨待從武官の御差遣あり、翌30日似島西方海上において、①に亙る爆雷投下演習を供覧した。

この演習には、第29戦隊から指揮官、戦隊長、乗組員として、第2・第3中隊長及び見習士官12名と①2、第30戦隊から

中隊長・見習士官2名と②1名が参加した。

1. 艦に在る字品  
を出帆した

3 出動

戦隊は、基地大隊の基地設定により、次の予定を出港した。

(1) 第1梯団

20.1.13 汽船

指揮官 第1中隊長

乗船部隊等 第1中隊、第3中隊、整備中隊の一部

① 60艇

第1梯団の輸送は、門司では汽船によるが、これ以後は機中隊の予定とす未定。

(2) 第2梯団

20.1.18 機中隊 7隻

指揮官 戦隊長

乗船部隊等 戦隊本部、先遣隊、第2中隊、乗務隊、整備中隊主力 ① 40艇

戦隊長は、当時の船舶事情から、直轄中隊に同第2梯団の方が、現地到着は早くと判断し、第2梯団と出港。

4. 第1梯団の行動

(1) 門司到着後、① 40は機中隊により輸送するにしろたが、5隻は若松港においり、火災のため焼失した。

乗員は木田見習士官以下6名が乗船。(以下木田班とす)

1行 出帆した

1. 出帆した

(2) 大田班班、20.1.21 出港、九州西岸に泊り、2.13 杵崎港、3.20 比叻永良部島沖に敵機の空襲にともなう船団の大部が擱浅し、口永良部港に在る約1か月後、船団司令部が命令により、残存機組船隻2隻を屋久島に送り、浦に帰還した。(4.28日)

その後、大田班の6名は、本土防衛のため新たに編成された第51戦隊、第52戦隊及び第53戦隊に分散して転属し、終戦を迎えた。

(3) 第1機団主力(②20)は、陸路鹿児島へ移動。同港から汽船により、2.17 沖繩に到着し、北谷基地に展開した。

(4) 出撃

この頃、内務省突入隊員1名(軍曹)が、戦後本土から復員して、当時、宮崎県地方世話部主任として、生死不明者の調査を実施していた戦隊長に對する通信により、判明したところあり、これにより、突入隊員の名が明らかになった。(本人は昭和22死去)

7. 軍の出撃命令に基き、第1中隊長中川中尉が指揮した17名は、3.29 2030時より、残存第1中隊、第3中隊及び基地大隊の支援のもと、艦を包囲し、①16艇を沈没し(中隊長艇には爆発手が同乗)、北谷西方慶良間沖に出撃した。突入決行は3.30 未明。

1. 突入時の状況について、通信は次のように伝えられている。

(原文のまま) (抜粋)

(7) 小生も3月29日中川中隊長殿以下17名の一人として①に2待望の攻撃に参加致し、駆逐艦に必死の攻撃を敢行致しました。不思議に命長きへ。 (21.5.15付)

(1) 3月30日未明突入。②は破水したが、私は何うしたのかは判り、米海軍に收容され。 (この後、厚良の諸島側の見島に收容され、沖繩本島、八戸、サンフランシスコ、テキサス州を経て、21.6.7浦富上陸) (21.6.1付)

(4) 突入時は、砲弾機銃弾の雨だった。我が攻撃の火柱は立ち、誠に筆舌に絶しまず。御想像下さい。故に生かされた女性約20人に生かされた思ひ人はありません。(私共今もまだ生かされて居ません) (21.6.1付)

(5) 中川中隊長殿は、突入寸前 全艇を集合させて此処まで来たが敵輸送船の累々発見の如。依つて此の島に駆逐艦に攻撃を行ふ。皆シッカリカラカと沈着豪胆 我々の志気を盛にされた。 (此の項は、一寸難しく上記の如く無行の如く表し兼ねます) (21.6.1付)

7. この攻撃において、前記生還者を除く中川中隊長以下の16名全員が戦死した。

13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

工本出撃の戦果について、防衛庁戦史には「軍は特攻隊の出撃に際し戦果を根拠と各部隊に命じたが、戦果は中型船1隻撃沈、不詳船2隻撃破と報告された」と記されている。(沖縄方面陸軍作戦 P.218)

(5) 3.29以降は、第3中隊長 相馬少尉が戦隊を指揮したが、後第26戦隊長 安達大尉の指揮を委く。

(6) 4.27以降は、船舶工兵第26聯隊に協力。

(7) 5.30軍の総反攻の際には、本島西岸 牧港に對する逆上陸を支援した。この時戦死5名。

(8) 以後は、船舶工兵第26大隊に属して地上戦に参戦し、5.25と那原 西方宮城附近において、相馬少尉以下29名が戦死した。

(9) 5月末が摩文仁に復還し、6.22に3名が戦死。

(10) 上記の戦隊の戦死者は、3.26被害において1名、5.26豊見城において1名がおり、第1梯団62名は、大田那部の名と、前記生還の1名を除く55名が戦死した。

#### 5. 第2梯団の行動

(1) 宇品出港後、瀬戸内海、九州東方海上を經て、月末山川港に入る。同港において爆雷積載の機中船1隻が加わり、船団

1. 宇品出港後、瀬戸内海、九州東方海上を經て、月末山川港に入る。同港において爆雷積載の機中船1隻が加わり、船団



5、8隻とす。2.5第1様団が鹿児島に在り、戦隊長同地に赴いて部隊を掌握し、沖繩における合流、取圍と誓った。

(2) 2月上旬枕崎奇襲。同港に碇泊中相馬某中隊長連絡に赴き、爾後行動について打合せた。その頃下士官1が出発後入院し残留。(9.5 8.6 高島陸軍病院に在りて被弾爆死)

(3) 記念節式典の翌 2.12 枕崎奇襲、夕口永良部港に入る。翌日より連日高浪をたふさず。2.20 出港するに浪高し航行困難のため引返す。

(4) 諏訪瀬島近海に於ける暴風被害

9 2.24 夕口永良部を出港し、夕諏訪瀬島に碇泊したが、夜半より同浪激しくなり、離島の北に漂流に至る。

1 2.24 夜半～25.0 間暴風高浪に翻弄され、26日朝再び諏訪瀬島附近に碇泊したが、根帆船2隻の航行方向不明と云へた。由り、隻は奄美大島北部望利湾赤木名に漂着し、後日船団に復帰したが、爆雷搭載の他、1隻はその後不明。

少、この時化のため機帆船に船体の損傷及び搭載武器海中落下等の被害が生じた。武器被害は、次、対空戦闘に支障を来した。

(5) 名瀬港外における対空戦闘

7 2.27 名瀬入港。3.1 在仁屋へ向りて港後同様に、名瀬港及び附近の我が艦船に対して、敵数十機の来襲あり。船団は敵機の

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000

銃爆撃を受けた。二、防空隊艦に与つた銃火被害は、整備中隊兵、船団士官兵各1、船員1が戦死し、軍医と整備中隊兵1が重傷を負つた。他に軽傷数名。

1. 佐々各機中隊には、5~6機(1)と(2)の満当と(言葉)の若干の爆高と搭載(2)は、幸い此等以上の被害は皆無に終わった。

(6) 人員は陸路大村へ。船団は回航し、同地に2戦死傷者の処置及び船団本部の修理。

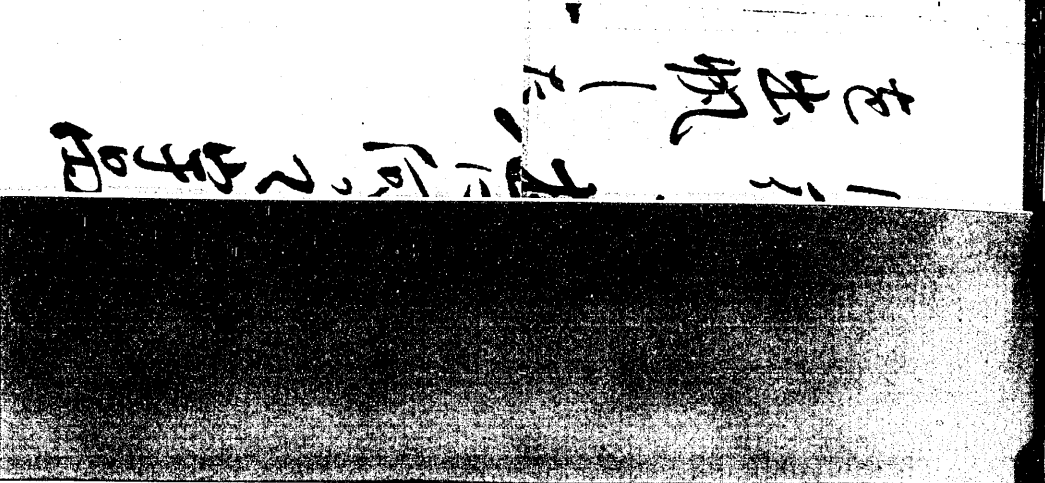
(7) 3.15 古仁屋入港。空襲あり。船団司令部印出機関の指示により回航された。

(8) 戦隊長徳之島へ移動

① 戦隊長は、徳之島から連絡機により沖縄本島に直行すため、特に大塚の生航を求め、回航に移動し「1」到着の日から連絡機便が運航したため、飛行場及び奄美守備隊司令部に於いて飛行便を待たした。

1. 待機中の4.1 敵機沖縄本島に上陸。総砲声遠隔の如し。二の貝には、前進基地として特攻機が進出し連日襲進した。

② 戦隊長は、一刻も早く沖縄に進出したため、奄美守備隊司令部高田少将の口添えを得て、折から東島の飛行部隊指揮官(佐佐木)から、意向の録飛行場に強行着陸して翌早朝突入す特攻機に同乗すること、後には沖縄上空の特攻機が落下傘降下することになり、了承を得たが、先任の出来事と心得ず、遂に来島以来約二週間が経過した。



(9) 戦隊長帰隊

戦況通達し、高橋の各部隊は、所在上級者の指揮を要するべしとの軍命令より、花菱中隊司令官の指揮下に入り、阿鉄に残留した(1) 40艇と、2. 花菱大島及び徳之島附近において戦闘するに決し、帰隊のため(3)の派遣を命じた。

1. 先遣隊長以下本部見習士官及び下士官の者が(4)2艇と、2. 徳之島に着いた時夜陰のたけ岸時サツの礁に衝突し、2艇共沈没した。

3. 大衆便を待、2古仁屋着(4)に2阿鉄へ(4)上(的)。不在阿棧帆船が隻は殆んど撃沈破られたが、(4)は揚陸秘匿されたり若干の沈没のみ。

(10) 阿鉄における戦闘準備

ア 直ちに戦闘言士画と策定し、訓練及び基地設定を開始した。

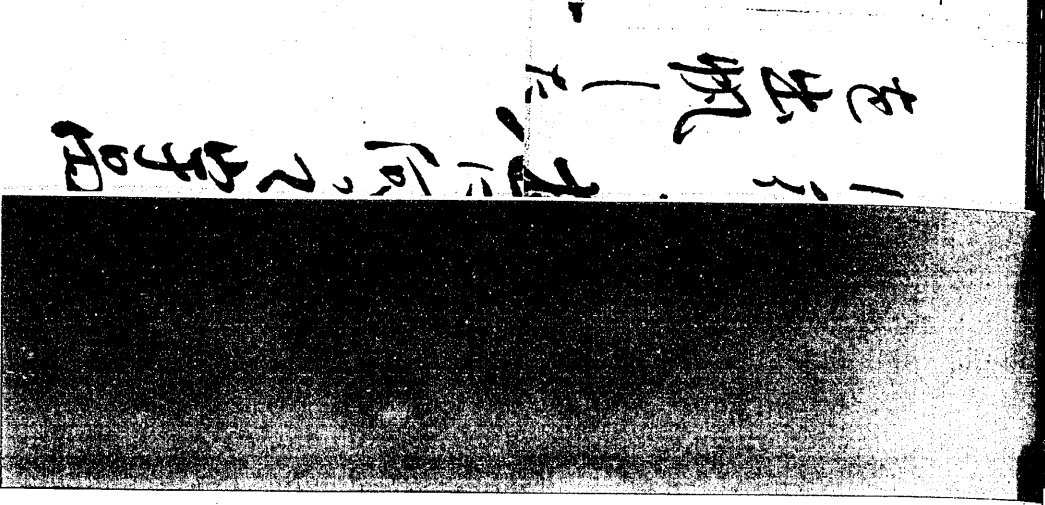
イ 出撃に備(2)は、所在海軍部隊指揮官加藤少将(司令部は加計呂麻島瀬相)の統制を要し、震洋と協同戦闘するに決

し、電話の設置を受けるにとも、常時(4)1隻を派遣して連絡を密にした。

ウ 砲臺は、古仁屋要塞部隊が支援を受けた。

エ 爆雷艇未着のため爆雷及び信管の補充を船艇司令官に要請したが、信管のみを海軍飛行艇より要領した。爆雷不足は海軍

より譲渡を受け、(4)信管の結合実験の結果爆発成功した。



1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.

本、6月7日、沖繩本島に於ける地上作戦の結果により、奄美地区に於ける敵の進攻の備え、攻撃に万全を期するに依り、高州集結隊を行す。一六、戦隊出撃後、残存兵力による地上戦、開戦時の準備にも着手した。終戦が臨むに、出撃の如く逐水二回(二回目は8-13夜)。共に築造に至らず。

(11) 終戦

7.8.14 深更、瀬相の海軍基地より急遽帰隊した連絡員の報告により終戦を知りし。

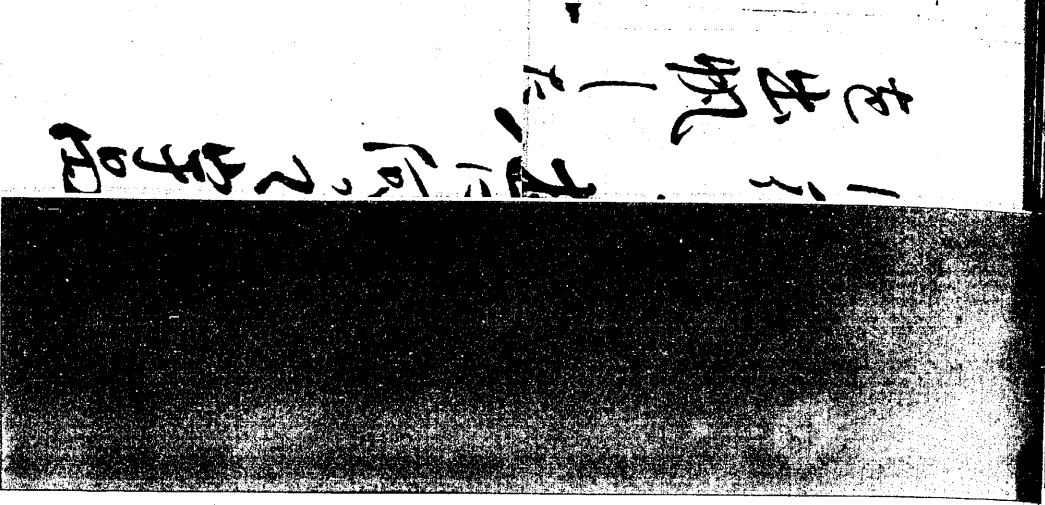
1. 戦隊長は翌早朝、自ら事実を確認するに依り、先遣隊長操縦隊の④にて瀬相に向ふ。大島海峡を航行中敵機に発見されたが、敵機は我を攻撃するに及ばず、我は上空に飛去した。このため、終戦の真実を正確に伝へた。瀬相は混乱。長尾は世用と阿鉄へ引退した。2. 戦隊長は阿鉄に於いて武器引渡し。朱軍の要領書、ハコノイ作以下武装兵約10名。

3. 10.26 戦隊編成1週年記念式典。訓示(別紙を参照)。

4. 11.2 本土帰還のため乗船。住民の見送りと豊平2阿鉄を後にして下士官1(樺太出身)が現地復員のため残留。

5. 11.5 博多上陸復員(人員数後記)。戦隊長は宇治船船司令部に出席し、状況報告。

(12) 戦隊長は、昭21.3~22.6の間宮崎県地方世話部に在籍して、戦隊、基地大隊兼警備隊及び整備中隊員の調査に着手し、調査



結果及心戦死公報資料並心工功簿上申資料也、留子業務部  
船舶訓練に提出し、調査業務を終了した。

6 戦死者及心復員者数

(1) 戦隊

総員 104名

7 戦死

慶良間沖突入

16名

(将校・見習士官 3、下官 13)

沖繩本島地上戦闘

39名

(将校・見習士官 4、下官 35)

(戦場)

牧港

5名

宮城

29名

摩文仁

3名

北谷

1名

豊見城

1名

石島被弾煤死

1名

計 56名

1 復員

奄美大島

41名

(内現地復員下官 1)

突入生還

1名

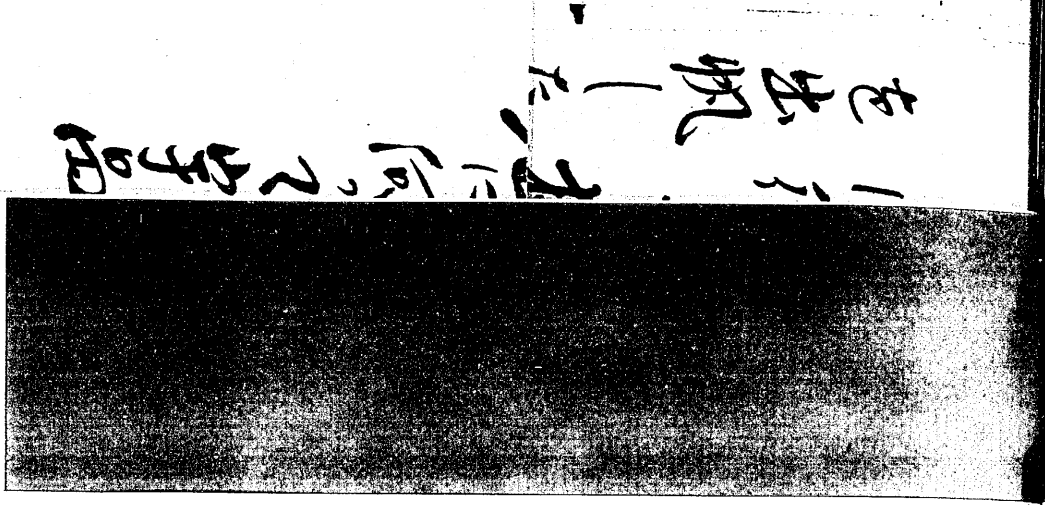
大田班

6名

計 48名

(2) 基地大隊兼務隊及心整備中隊 総員 80名

7 戦死



艦隊  
戦死







地誌一  
一  
一

本署の土...

海上におりて、本署同様の予り演習の事は  
なされました。

参加艇は、第29戦隊 = 第30戦隊 = 19  
計三艇に、乗員は、各艇 = 名27名に  
なりました。

29日午後、重富、第3中隊長、相馬、第3  
中隊長と棚部、見習七友、30日、若潮、報  
親、13名、中郷、中隊長以下、9名と思  
われます。

2



11月1日 北風

三艇集結して出発準備を完了し、エンジン  
始動を命じて、艇隊前進に移ろうとして  
時、約30秒後の爆音が聴こえる。この  
現認したのみ。満中は空うらぐと操縦手  
の重富君が鉄帽を叩いて、待避を命じ  
た。このうらぐと操縦士といふに重富君  
は、急を解きず「ハッ」と言いつながら振向き  
ました。私の見事な異音と直感したか  
ら急ぎ進み、直後爆音が起りました。

3

北風  
11月1日

4

船底に物凍り、衝撃を蒙り、船の持ち  
上げられ、港より海水の落下を果し  
した。  
港の端より奥の海には、四角の  
浮きあり、30戦隊艇は既に雪、相馬艇は  
艇首と少くも沈没した。  
幸高君に「救助！命を！道は！」と  
叫び、船の道を見え。見ると船底の  
割れた海水の入り、沈没する状態



11月1日 出帆  
11月2日 出帆

1 戦隊長、スズキをつかまえました。大志を  
あげました。おれは泳ぎを思ひ出し  
ました。一回は通せません。

1 おまよと泳ぐのを諦めて、胸の折置サを旗  
を取出し、本船に向って振りました。

幸い爆発はありませんでした。

救助艇に移乗し、甲板板上げの故報告

をいたしました。お十八、別だたごしごう、船医科

のそなた補生が、演習と名に乗船していたこと

6

1045 2. 可... 一... 一... 一...

見えたりす。

いよくおまの目。 腿を擦る。 利義隊の乗馬は

前事故で脚を負傷した棚部見留を有る。

若尾見士に交代したほか、前回は同じ。 30戦隊

の方向は記情心にあがまん。

今後は慎重を期して、乗馬しなく各腿割傷を

念州、出雲半備を完くし、利義隊を道に送り

すした。 各腿の距離は、一歩の法に、にりかか

7 尤90°に振り、全速振りにつくす投下の旗

北支那の可成り

信子を送り出した。先鋒の私(9)から、青島  
柏島艇、最後尾の30戦隊艇と、今夜も包囲  
に爆発した。

私の本船に近づく戦隊と通過しなから、漁船  
給りの戦隊と一たび、船上から交戦し、私の  
比叻の言、このようにして、その上、青島で交戦し、  
また、青島で交戦した。戦隊隊長は、青島  
戦隊隊長の命令で、青島で交戦した。私は、  
また、青島で交戦した。

お城へ来た  
お城へ来た

今合塔所の船司全部が在りて達と  
侍従武官御一行の到着を待たしめたが、  
仰せ見えません。當時此地に腸チフス患者  
の発生ありて、塔合に近づかば合舎は中止され  
おも知れないといふことを測りしめたが、各戦地数  
相談の上各地に帰るべく山岸壱に行つたところ  
一行の見えしした。

9 其先の上陸したる者持隊長は、船を見る  
や、山本、貴様またやうにすしと一ち。其は

何の事かかゝる、  
と答をきく、  
「そういやなんだ、相馬の①の標榜  
投下直後、テストと、又飛ぶよんだ」とり  
こと。この時、おれは、事、次第を知り、そでは、船の  
練習終了ともお船に報告はし、たとき、船上  
から、おれの人、おれの大急を叫んでいたようだった。  
おは、この事について、おれは、たが、おれは、おれは、  
2) 10。

10 幸い乗員は、おれは、たが、おれは、おれは、







# 祭文

本日二に海上挺進隊第三十九戰隊並に海上挺進基地  
隊第三十九大隊兼務隊の生存者相集、先の沖繩決戦場  
に於いて殉國せられた御英靈に討し謹んで申し上げ奉  
ず  
戰隊は昭和十九年十月二十六日辛酉に於いて編成を完結し  
基地大隊の基地設定を待て、昭和二十年一月十三日中川第一  
中隊長の指揮する第一中隊第三中隊及び整備中隊の  
一部は第一機団として汽船により一旦門司港を経て本隊  
は第二機団として同日八日兼務隊及び整備中隊の主力を  
同行して機帆船により直路沖繩本島北谷に向て字品  
を出帆したのであります。

二日間の昼夜を命にぬ撃撃訓練中特に御差遣に於て山縣  
侍從武官に對して特攻訓練の状況を御披露申上げたに戦隊  
金刃百艘を以て実施して航行訓練更には戦隊全を參加  
の夜間機動等昨今のこのよに思はれ申す  
私共第二隊團が山港に碇泊中第一隊團の皆標が鹿児島  
に於いて待機中の一を通知し、私共同地に於て沖繩と南倉合流の上  
戦隊一丸となりて一死報國を極意合、城上に登りて南州の  
最期を思ふたが皆標を命にた最終の機会を以て  
其の後の第二隊團は高浪のたの航行意の如くならず特に  
二月二十四日の諏訪瀬島附近に於ける暴風も三日日名瀬  
港外に於ける対空戦闘の事後処理等のため右に屋倉港は  
三月十五日になつてしまふた  
当時敵機の来襲頻りたの船舶司令部生機関の指示に於

船団は阿鉄湾に入りヨシト、私隊は第一梯団は沖繩本島に到着  
したるのどほなかと思ひ、部隊は先行して徳島に渡り、六路沖繩  
へ進出を圖りたりしが遂に米軍を果すなかりヨシ 四日 沖繩本島へ  
敵軍上陸を知、たのでありヨシ

二の前夜軍司令部に對し、第一梯団の行動に、一、幾度照會  
致し、たが戰勢緊迫のため返電に接す、二はてヨシせ、た  
私隊は奄美守備隊司令部に指示に基き、一、砲、二、砲、三、沖繩本島  
へ進出を期するも、取、敢えざるは奄美大島及び徳島國道海上に  
たける、戰闘を準備するに、た、一、阿鉄を基地に、所在海軍水上  
特攻部隊の協同戰闘に備え、た、一、六月下旬 沖繩本島準備  
部隊玉碎の悲報に接し、た、一、  
私隊は必すや、以、中、合、戰、を、一、極、意、し、出、撃、等、の、た、め、の、決、水、を、行、う、に、し

西度に及びたが遂に敵艦船襲撃の機会に恵まれた。八月  
十四日深夜終戦の大詔が演説されるにともなう  
海路における障害のたゞなは決戦に参加し得た。これは本意に  
申談之只、慚愧の極なり。予、逸る心を抑えて戦を中止し  
敵軍に討つ武器引渡した。たのも大詔を奉じた。故に外務省に  
私共皆掃方。御消息全く不明。八月十日、阿鉄は後に  
博多に上陸復員致す。予は、以後私復員業務に従事  
し。この時付た皆掃にこの情報、最も悲しむべきであらう  
と云ふ。中川中隊長以下十七名、勇士は舟艇十六隻に搭乗  
し三月三日未明慶良間沖の敵艦船群に突入し、岸砲臺樹  
乙軍司令部に威嚇を授けられた。又残余は相馬星三  
中隊長指揮のもとに地上戦闘に従事し、勇敢奮闘の末

遂に全員散華せられたるは 亦まに尊之る御功績は燦として

後世に輝やも、永之詔、継がれることありしに

あれが二十有六才の歳に流れて、今日、御國の興隆は

至誠以て國難に殉じられた皆標方、御加護に因りしを信

す

これに生る難き命を承らえて、其間部隊として

慰靈の祭を行ふこと、今日に至りては、亦まに申設

ち、是れ心より深くお詫び申し上りす

最後に、英霊、御冥福、御遺族皆標方、御尊筆

衷心お祈り申し上りすと共に、御國の平和、一層の發展の

ため、御加護を賜わりますこと、御願ひ申し上りす

昭和五十六年十月十八日

元海上挺進隊二十九戦隊長 山本久徳

